

●手賀沼水面鳥類センサス結果

調査日:2011年12月16日、2012年1月13日、2月15日(9:00~13:00)

科名	種名	個体数(12月)	(1月)	(2月)
カイツブリ科	カイツブリ	21	50	40
	ハジロカイツブリ	16	0	0
	ミミカイツブリ	2	0	0
	カンムリカイツブリ	56	24	15
ウ科	カワウ	153	29	31
サギ科	アカガシラサギ	0	1	1
	ゴイサギ	1	0	0
	ダイサギ	19	7	3
	チュウサギ	0	0	0
	コサギ	33	19	11
	アオサギ	17	29	10
カモ科	コバクチョウ	59	30	20
	コバクチョウ	4	0	0
	マガモ	11	138	24
	カルガモ	88	136	226
	コガモ	133	534	209
	オカヨシガモ	2	6	9
	ヒドリガモ	11	14	0
	オナガガモ	330	573	311
	ホシハジロ	0	1	7
	スズガモ	0	1	0
タカ科	ミサゴ	1	1	3
	チュウヒ	0	2	0
クイナ科	バン	1	2	1
	オオバン	52	62	94
シギ科	イソシギ	1	1	0
カモメ科	ユリカモメ	115	24	0
	セグロカモメ	7	6	5
カワセミ科	カワセミ	7	6	8
セキレイ科	ハクセキレイ	1	1	0
カラス科	ハシボソガラス	24	7	12
	ハシブトガラス	1	0	1
家禽や外来種	バリケン	3	2	3
	アヒル	0	3	0
	ドバト	10	20	0
合計	34種	1188	1770	1050

●岡発戸の谷津田鳥類センサス結果

調査日:2011年12月20日、2012年1月13日、2月17日(9:00~12:00)

		個体数(12月)	(1月)	(2月)
サギ科	ダイサギ	0	1	0
	コサギ	1	1	2
	アオサギ	1	0	0
タカ科	オオタカ	0	0	1
キジ科	キジ	1	2	2
ハト科	キジバト	1	13	3
カワセミ科	カワセミ	0	0	0
キツキ科	コゲラ	4	2	5
ヒバリ科	ヒバリ	0	0	1
セキレイ科	キセキレイ		1	0
	ハクセキレイ	3	9	4
	セグロセキレイ	5	3	4
	タヒバリ	1		0
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	81	65	22
モズ科	モズ	1	2	7
ツグミ科	アカハラ	1	0	2
	シロハラ	2	1	1
	ジョウビタキ	0	3	4
	ツグミ	0	4	8
	ツグミ科種sp1	3	10	2
	ツグミ科種sp2	0	1	0
ウグイス科	ウグイス	2	6	4
エナガ科	エナガ	8	10	0
シジュウカラ科	シジュウカラ	4	6	10
メジロ科	メジロ	9	12	16
ホオジロ科	ホオジロ	2	12	6
	カシラダカ	10	89	1
	アオジ	13	27	44
	オオジュリン	0	1	0
アトリ科	カワラヒワ	24	21	3
	シメ	0	2	1
ハタオリドリ科	スズメ	43	165	123
ムクドリ科	ムクドリ	0	0	3
カラス科	カケス	0	0	1
	ハシボソガラス	34	9	31
	ハシブトガラス	11	10	10
合計	36種	265	488	321

あびこ鳥だより

SPRING
2012

【春号】

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.29



<目次>

特集ページ・・・・・・・・・・ 2

知っているようで知らないペンギン

最新情報・・・・・・・・・・ 3

鳥の博物館の自然観察会「てがたん」のご案内

「飛べ！鳥の紙ひこうき」に参加しませんか？

「日本の鳥～鳥博コレクション展～」好評開催中

イベント情報・・・・・・・・・・ 3

山階鳥類研究所研究員によるテーマトーク

我孫子市鳥類調査結果・・・ 4

利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)
館内整理日、年末年始(12/29~31、1/1~4)

●入館料

区分	個人	団体(20名以上)
一般	300円	240円
高校生、大学生	200円	160円
小・中学生	100円	80円

*以下の方は入館料が免除されます

- ①70歳以上の方 ②障害者手帳をお持ちの方(付き添い1名含む)

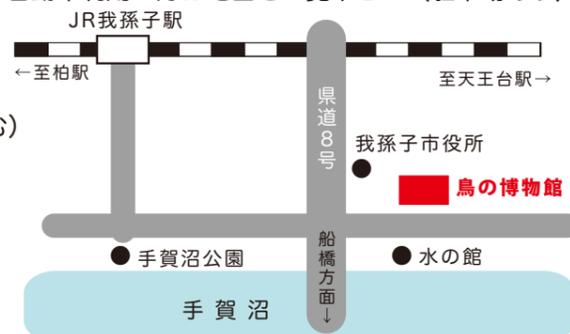
●お問い合わせ：我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3
☎: 04-7185-2212 FAX:04-7185-0639
ホームページ: <http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp/>

交通案内

- 電車とバス利用
JR我孫子駅下車、我孫子駅南口バス停より市役所経由バスで「市役所」下車、徒歩5分
*毎週土日祝日は博物館行きのバスが運行しています
我孫子駅南口バス停より、天王台行きバスで「鳥の博物館」下車
天王台駅南口バス停より、我孫子駅行きバスで「鳥の博物館」下車

●自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場あり)



表紙の鳥：シジュウカラ

知っているようで知らないペンギン

動物園や水族館でよく目にするペンギン。ヨチヨチと歩く愛らしい姿が印象的です。みなさんは「ペンギン」と聞いてどんなことを思い浮かべますか。

寒い所で暮らしているイメージが強いペンギンですが、実は暖かい所に生息する種も多く、中には赤道直下に生息しているものもあります。雪と氷に覆われた南極で主に繁殖するのはペンギン17種のうち、コウテイペンギンとアデリーペンギンの2種のみです。日本の動物園や水族館で屋外飼育されているペンギンのうち、暑さに耐えられないような種は、夏の間冷房の効いた屋内で飼育されます。

日本で一番よく見るペンギン ～フンボルトペンギン～

日本はペンギンの飼育数が多い国として知られています。中でも最も多く飼育されているフンボルトペンギンは、南アメリカ大陸のペルーからチリにかけての太平洋沿岸に生息しています。サボテンが生えるような温暖な地域に生息していることもあって、日本の気候にも馴染むのでしょう。

暑さには強い種のペンギンですが、その一方で寒さは苦手です。雪の降る寒い日、フンボルトペンギンはどのように過ごしていると思いますか。私が以前勤めていた水族館のフンボルトペンギンは雪の降り積もる陸地ではなく、水面に浮いたり、泳いだり水の中で過ごしている姿をよく目にしました（写真右）。水中の方が寒いように思われるかもしれませんが、とても寒い日は外気温にさらされるよりも、むしろ水中の方が暖かいので、寒さが苦手なフンボルトペンギンは水の中で過ごしていたのでしょう。雪や氷のイメージが強いペンギンですが、日本で飼育数が多いペンギンは寒さが苦手な種であるため、雪景色に佇むペンギンの姿というのは、実際にはなかなか見られないということになります。

日本ではよく目にするフンボルトペンギンですが、野生では数が少なくなり、絶滅が心配されています。そのため、現在は野生の動植物の国際取引を規制するワシントン条約によって保護されています。



フンボルトペンギン



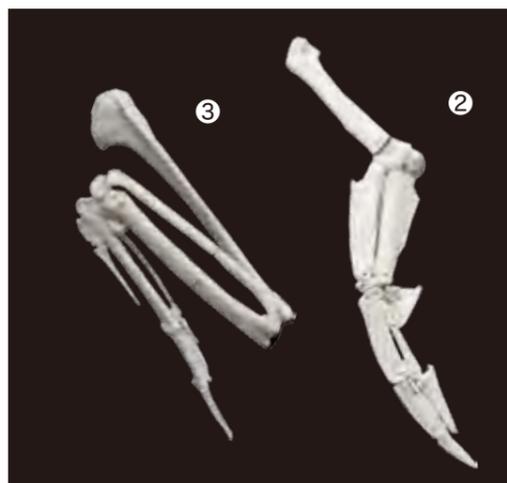
見た目は似ているけれど ～ペンギンとウミガラス～

現在、約9,000種知られている鳥類の中で、ペンギンは海での生活に最も適応した鳥です。「ペンギンって鳥なの？」という声も時々耳にしますが、ペンギン目ペンギン科6属17種（16～18種と諸説あります）に分類される海鳥なのです。泳いでいるペンギンを横から見ると、水の抵抗が少ない、泳ぐのに適応した紡錘型（ラグビーボール型）の体をしていることがわかります。高速で泳ぐマグロの仲間と同じ形をしています。

ペンギンとよく似た姿をしているウミスズメ科のウミガラスはペンギンと同じように泳ぐこともでき、また空を飛ぶこともできます。ペンギンの仲間とウミガラスの仲間は翼を使って水中に潜るため、ずんぐりとした紡錘型の体をしていることや、小さく強い翼がよく似ています。見た目は似ている両者ですが、空を飛べないペンギンと空を飛ぶこともできるウミガラスでは、骨の造りに大きな違いがあります（写真①）。鳥類の骨は空を飛ぶのに都合が良いように、空洞が多く、軽い造りになっています。では、空を飛べないペンギンの骨はどうなっているのでしょうか。

ペンギンの骨は太く丈夫な造りで、体は重くなり、水に潜るには好都合となっています。両者の翼の骨を見比べてみると違いは一目瞭然です。ペンギンの翼はフリッパーと呼ばれ、他の鳥類には見られない板状の骨です（写真②）。ペンギンが水中を高速で泳ぐことができるのは、この太くて丈夫な骨からなる翼を持っているからなのです。一方、飛ぶこともできるウミガラスの翼の骨はペンギンとは違い、他の鳥類と変わらない形をしています（写真③）。泳ぐ時の翼の状態にも違いが見られます。ペンギンは頑丈なフリッパーで大きく水をかきながら泳ぎますが、ウミガラスは翼を少しすぼめた状態にして、羽ばたきながら泳ぎます。

見た目が似ていて惑わされることがあっても、骨や泳ぎ方を見比べることで、容易に正体を見破ることができるのです。



鳥の博物館では「世界の鳥」コーナーにオウサマペンギン・フンボルトペンギン・マゼランペンギン・イワトビペンギンの4種を展示しています。また、体験学習コーナーではフンボルトペンギンの翼に触れることができます。博物館ですので、はく製のペンギンです。「生きてないんだ」と残念に思う方がいるかもしれませんが、でも、動かないはく製だからこそ、より近くで、そしてじっくりとペンギンを観察することができます。ペンギンの翼は空を飛ぶ鳥の翼とどのように違うのでしょうか。鳥の博物館でその謎を解き明かしてみましょ。

参考文献：上田一生「ペンギン図鑑」1997

鳥の博物館の自然観察会「てがたん」のご案内

「てがたん」は手賀沼定例探鳥会のことで、鳥の博物館の自然観察会です。2004年4月に始まった「てがたん」は今年で8年目を迎えます。毎月テーマを決め、その季節の見どころを楽しむとともに、観察したすべての生物を毎月記録しています。

2012年度の観察テーマをお知らせいたします。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

時間：毎月第2土曜日 10:00～12:00
 集合場所：博物館玄関前（参加無料・予約不要）
 案内人：鳥の博物館市民スタッフ

*高校生以上の方は保険料100円が必要です

実施日	テーマ
4/14 (土)	「桜に集う鳥」
5/12 (土)	「鳥の子育て」
6/9 (土)	「田んぼの生き物観察」
7/14 (土)	「生き物から見たてがたんコースの環境」
8/11 (土)	「手賀沼の中の生き物観察」
9/8 (土)	「草原の生き物観察」
10/13 (土)	「色々な植物たちの種子散布」
11/10 (土)	「鳥の渡りとモズの高鳴き」
12/8 (土)	「色々な木の実の形と種類」
2013/1/12 (土)	「冬鳥観察」
2013/2/9 (土)	「樹木ウォッチング」
2013/3/9 (土)	「春を探そう」

「飛べ！鳥の紙ひこうき」に参加しませんか？

鳥の紙ひこうきを作って飛ばすイベントを開催します。普通の折り紙で作るものとは違い、航空力学の原理にもとづき設計された紙ひこうきで、ゴムの力で空高く発射すると、長い時間大空を飛び続けます。みなさんもぜひ体験してみませんか？

講師：中村 博さん（鳥の博物館市民スタッフ）
 *参加には申込みが必要です。詳しくはイベント情報をご覧ください

開催日：5月3日（木・祝）①10:00～12:00 ②13:30～15:30



手投げで練習した後に、カタパルトで大空に飛ばします！

企画展「日本の鳥～鳥博コレクション展～」好評開催中！！

2月からスタートした企画展「日本の鳥～鳥博コレクション展～」が好評開催中です。今回の企画展では期間展示として、夏休み期間と11月に開催されるジャパンバードフェスティバルの期間に、それぞれ「我孫子の身近な鳥」、「日本のレッドデータバード」の展示を予定しています。

夏休み期間前までは、多様性に富んだ鳥類相を支える日本の環境要因や日本産鳥類の分布要素など、日本の鳥の成り立ちを知るための情報を展示しています。ぜひご来館ください。

展示期間：平成24年2/11（土）～平成24年11/25（日）



イベント情報

●自然観察会

- てがたん～手賀沼定例探鳥会
 時間：10:00～12:00
 集合場所：博物館玄関（参加無料・予約不要）
 4月14日（土） 「桜に集う鳥」
 5月12日（土） 「鳥の子育て」
 6月9日（土） 「田んぼの生き物観察」

●講演・座談会

- テーマトーク
 時間：毎月第2土曜日 13:15～14:00
 場所：多目的ホール（参加無料・予約不要）
 講師：山階鳥類研究所研究員

●工作教室

- 飛べ！鳥の紙ひこうき
 日時：5月3日（木・祝）①10:00～12:00
 ②13:30～15:30
 集合場所：手賀沼親水広場 水の館3階研修室
 対象：小学生以上（小学生未満は保護者同伴で参加可）
 定員：各回先着20名（要電話予約）
 申込み：我孫子市鳥の博物館 04-7185-2212
 *4月16日より申込み受付開始

2012年4月～6月

*観察会は高校生以上の方は保険料100円が必要です

お問い合わせ：鳥の博物館 ☎:04-7185-2212 FAX:04-7185-0639